

声が枯れるまで送り続けたエール

川根高等学校 3年 大窪一輝

おおくばかずき

私たち応援委員会は、主に夏の野球応援と壮行会での応援を目標に活動しています。通常は週2回、昼休みの時間帯を使って声出しやダンスの振り付け等の練習、そして野球応援の一ヶ月前からは、毎日放課後に集まり仕上げの練習を行いました。

一年前、私が応援委員長

一という大役を担うことになりました。しかし、そんなになつた時は正直不安がありました。しかし、そんな私を支えたのが応援委員会の仲間達です。最初はリーダーとして皆を引っ張つていかなくてはならぬという想いから、さまざ

まな問題を一人で抱え込んでしまい、自分一人ではどうすることもできなく悩んだ時期もありました。そんな時、他の団員は一緒に考え、練習や本番でも積極的に動いてくれました。「自分は一人ではないんだ」と仲間の大切さに気が付くことができました。

しかし、応援は応援委員会だけでするものではありません。全校生徒が一丸となつて応援することに意味があるのだと思います。時には応援委員長として厳しいことを言わなければならぬ場面もあり、皆がどんな反応をするのか、嫌われないかと悩んだこともあります。

しかし、自分にはついてしてくれる仲間がいると信じ、言うべきことは言つていこうと心掛けてきました。

野球応援の当日は、惜しまれましたが、委員長として心残りはありません。なぜなら、学校全体が一丸となつて戦うことができからです。気持ちが入り過ぎて倒れてしまう人がいるくらい、全員声が枯れるまで選手にエールを送り続けました。皆で一つになつて全力を尽くすことができたからこそ、悔いは残りませんでした。

私は、応援委員会の活動によって「川根高校の一体感」を創り出すことができたことに喜びを感じています。正直大変な委員会活動でしたが、それだけに得るものは大きく、この経験を今後の人生に活かしたいと考えています。



▲大窪一輝さん

column

「引換券」



「引換券」



交換期間:9月20日金~9月29日日

コピー不可

茶娘ちゃんカード会

交換期間:9月20日金~9月29日日

コピー不可

茶娘ちゃんカード会

